



# JFAアカデミー福島

## ～世界に通用する人材の育成～

福島県企画調整部地域政策課

JFAアカデミー福島は、(財)日本サッカー協会(JFA)が運営する、中高一貫でサッカーのエリート教育を行う日本で初めての施設であり、福島県の双葉郡にある日本最大のサッカーのトレーニング施設「Jヴィレッジ」(後述)に隣接して設置されています。

福島県双葉郡は、太平洋や阿武隈山地などの豊かな自然に囲まれた8町村から成り、原子力発電所、火力発電所が立地する国内有数の電源地域として、首都圏の消費電力の約3割に相当する電力を担っている、いわば「電気のふるさと」です。

### Jヴィレッジ

最初に、Jヴィレッジを紹介いたします。

Jヴィレッジは、双葉郡広野町と楡葉町にまたがって整備されており、1997年にオープンしました。昨年6月には、文部科学省からサッカーのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定されています。

また、Jヴィレッジは、5千人収容のスタジアムを含む11面の天然芝フィールドのほか、約260名収容の宿泊施設、体育館、フィットネスクラ

ブ、レストランなどを有し、2002日韓ワールドカップにおけるアルゼンチン代表のキャンプ地をはじめ、各種大会、各年代の代表チームの合宿、さらにはサッカー以外のスポーツにも利用されています。

JFAアカデミー福島が双葉郡に立地した大きな要因の一つとして、このJヴィレッジの存在があげられます。

### JFAアカデミー福島の概要

JFAアカデミー福島は、男子は広野町、女子は楡葉町に寮があり、それぞれ専用の練習場やJヴィレッジで練習しています。寮や練習場は、町が県の支援を受けて整備したものです。

生徒たちは、県と広野町、楡葉町、富岡町が進める双葉地区教育構想(後述)に基づき、連携型の中高一貫教育の中で、学業に励みながら、JFAアカデミーの人材育成プログラムを受けています。

毎年、全国各地から、難関の試験に合格した中学1年生の男子15名、女子6名程度が入校しており、現在は、男子72名、女子35名が在籍しています。



男子寮「柵」



現在の女子在校生35名です

指導を行うスタッフには、スクールマスターの田嶋幸三氏（(財)日本サッカー協会副会長兼専務理事）を筆頭に、S級ライセンスを有するコーチ陣が顔をそろえ、加えて医療や栄養面など、さまざまな視点からサッカー選手を目指す子どもたちにとって最高の環境が提供されています。

## 開校の背景

JFAは、2005年宣言の中で、2015年までに世界トップ10、2050年までにワールドカップの開催・優勝という目標を掲げています。

このような中、JFAアカデミー福島は、2006年度に誕生しました。

アカデミーは、2005年宣言実現に向けたロードマップにおいて、キッズ年代（10歳以下）、U-12（12歳以下）に対する取り組みなどととも、目標の実現に向けた主要な軸に位置づけられており、JFAのユース育成コンセプトの発信源として、また、そのモデルとして重要な役割を担っています。

## JFAアカデミー福島が目指すもの

JFAアカデミー福島の目的は、「世界トップ10を目指した個の育成」です。

サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視しており、「常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成」をフィロソフィーとして、世界に通用する選手・人材の育成を目指しています。

毎年行われる入校式では、在校生が歓迎の言葉を送り、新入生が決意表明を披露します。初々しく、希望に満ちた決意表明を行う新入生と、アカデミーの育成プログラムを受け、まさに自信に満ちた振る舞いで歓迎する在校生。JFAアカデミー福島での生徒の素晴らしい成長と、今後に向けた大きな期待が実感できる瞬間です。

## 双葉地区教育構想

ここで、福島県がJFAアカデミー福島の人材育成プログラムと連携しながら取り組んでいる双葉地区教育構想に触れておきます。

そもそも、この構想に関しては、JFAから「公立学校と連携して、Jヴィレッジを拠点に、サッカーのみならず、人間的な教育、論理的思考、コミュニケーションスキル、IT、外国語等総合的な教育を行い、日本サッカーのレベルアップと社会をリードしていく人材の育成を図る」という趣旨の提案がありました。

県としても2001年3月に策定した第5次福島県長期総合教育計画「新世紀ふくしまの学び・2010」において、国際社会を主体的に生きる資質・能力を育む取り組みを推進することとしていたこともあり、新たな教育構想を策定することを決定しました。

構想は、国際化が進展する中で、「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を基本目標とし、以下の3点を柱としています。

- ① 基礎・基本を定着させ、学ぶ意欲、知的好奇心、論理的な思考力・判断力・表現力などに裏付けされた「確かな学力」を育む。
- ② 「個」を磨くという観点から、高い志を持ち果敢に挑戦する力や、独創性を生かし自ら考え行動する力を育むとともに、ボランティア等の社会奉仕・貢献活動にも積極的に取り組むこと等により、豊かな人間性・社会性を養う。
- ③ 実践的な英会話能力とIT活用能力、コミュニケーションスキル、自国・郷土文化理解の上に立ち、豊かな国際感覚等を兼ね備えた地球時代の「開拓者」を育てる。

実施体制は、県立富岡高校と広野中学校、楢葉中学校、富岡第一中学校、富岡第二中学校による連携型の中高一貫教育で、県と広野町、楢葉町、富岡町が協力して進めています。

国際人育成の具体的な取り組みとしては、JICA二本松との連携や中高一貫の英語教育のほか、海外留学、スポーツを通じた海外ホームステイなどが挙げられます。

## 論理的思考・ロジカルコミュニケーションスキル

JFAアカデミー福島では、寮生活という環境を活用して、サッカーの技能ばかりでなく、人間的



メキシコの名門クラブ「チーバス」のエンブレムの前で

な教育や社会をリードする人材となるための教育も行っており、特に論理的思考やコミュニケーションスキルの習得に力を入れています。

簡単に言いますと、状況を的確に把握・分析し、論理的に考え、誰からも正確に理解してもらえるように話をする能力の向上です。

これは、田嶋氏がドイツ留学などの海外での経験を踏まえて構築してきたカリキュラムであり、実際にアカデミー福島の生徒と話をすると、簡潔で的確な表現で受け答えをする姿に驚かされま

## 国際人育成の具体的取り組み

アカデミーの生徒は、これまでも海外への留学などにより、サッカーの能力向上と国際人を育成するための教育プログラムを受けてきています。

また、JFAアカデミー福島では、今年度、初めての試みとして、出発から寮に帰るまでを生徒だけで行う短期留学を実施しました。留学先は、アメリカ・フランス・ドイツ・メキシコ・スペインです。

帰ってきた生徒たちは、トレーニングに打ち込む姿にも表情にも変化が表れたそうです。

このような体験ができるのも、真のエリート教育を目指すJFAアカデミー福島ならではのようです。

## 生徒たちの活躍

JFAアカデミー福島は、今年度5年目を迎えています。男子は一期生が高校2年生ですが、女子

は一期生として高校進学時の生徒も募集・入校したため、すでに卒業生も出ています。

男子では、今年3月に、一期生の幸野志有人君が初のJリーガーとしてFC東京に入団しました。

女子でも、卒業後なでしこリーグで活躍する選手が出てきており、また、今年開催されたサッカー女子U-17ワールドカップトリニダード・トバゴ大会には、在校生5名が出場し、見事準優勝に貢献しています。

## おわりに

アカデミーの生徒は、地元のイベントへの参加や田植えなどの農業体験を通じて、地域住民との交流を行っており、住民の皆さんも親元を離れて生活している生徒たちを自宅に泊めるサポートファミリー制度などで支援してくださっています。

このような交流を通して、サッカーが地域にだ

いぶ浸透してきています。また、身近に感じられる生徒や卒業生の活躍は、地元の方々、さらには福島県民の喜びであり、地域に元気を運んでくれています。

福島県としても、親元を離れて6年間をこの地で過ごす生徒の皆さんに「第二のふるさと」と思ってもらえるように、広野町・楡葉町・富岡町とともに、引き続き応援していきたいと考えています。

そして、JFAアカデミー福島の生徒たちが、いつの日か日本代表のユニフォームを着て、ワールドカップで活躍し、また、社会をリードする存在として世界にはばたくことを願っています。



田植え体験の様子